

作成日： R5 年 4 月 20 日

令和 5 年度第 1 回 高松圏域自立支援協議会 相談支援部会 議事録

日付	令和 5 年 4 月 20 日(木)
時間	9 : 30 ~ 11 : 00
開催会場	ZOOM
参加機関等	三木町、地域生活支援センターこだま、障害者生活支援センターあい、障害者地域生活支援センターほっと、障害者相談支援センターりゅううん、地域活動支援センタークリマ、相談支援事業所ライブサポートセンター、支援センターこがも、あじの里地域生活支援センター、生活支援センターサンサン、相談支援事業所おりがみ、相談支援事業所 COMPASS サポート、特定非営利活動法人自立ケアシステム香川、社会福祉法人高松市社会福祉協議会障がい者相談支援センター、障害者相談支援事業所ミルキーウェイ、相談支援事業所 We、相談支援事業所ウェルネスサポート、相談支援センターフリーダム、支援センターgaryu、みき相談支援センター、相談支援ナビット、相談支援センターぱぷりか、あいリンク、シシイ相談支援事業所、障害者生活支援センターたかまつ、高松市障がい者基幹相談支援センター中核拠点  順不同 計 31 名

議題 1 : 計画相談の受け入れ状況について等

議事	新規受け入れ状況の確認
----	-------------

議題 2 : 情報提供・共有

議事	高松支援学校からの情報提供 高松支援学校におけるサービス担当者会議への参加や情報共有に関する取り組みについて情報提供。学校で取り組む支援目標や支援内容と福祉サービスでの支援内容を共有し、よりよい支援につなげたいとお話いただいた。会場を学校とすることにより、学校で活用しているツールなどを確認する機会となる。 個別の教育支援計画に関するリーフレットの説明。 会議開催の時間については、授業がない時間を想定しているが、その
----	--

	他の時間帯でも対応可能な場合もある。
--	--------------------

議題 3：災害時モデル事業の事例について	
議事	協力いただく事例の共有

議題 4：相談支援専門員の更新について	
議事	<p>現任研修の年度がわかるようなシートを作成。</p> <p>申告済みの事業所には、データを入力したシート、申告していない事業所にも、フォーマットを送り各事業所で保管管理する。</p>

議題 5：エリアミーティング	
議事	各事業所のエリア一覧を周知する。

議題 6：今年度の活動について	
議事	<p>5月は ZOOM 開催。6月以降は各事業所の事情に応じて参加しやすい選択可とする。</p> <p>奇数月は GSV（5月スタート：事例提供者はランダムに選出、様式の活用）</p> <p>偶数月は研修開催。8月以降の偶数月に「行政への質疑応答」を実施予定。その他、希望する講義内容を募る。</p>

議題 7：困りごとなど	
議事	<ul style="list-style-type: none"> <li>・移動支援など、新しい要綱の入手を希望。</li> <li>・「適応外」と判断される基準や理由の行政の説明が望まれる。</li> <li>・短期入所支給量の柔軟な対応が得にくい状況がある。</li> <li>・行政に提出する理由書の所定書式が必要ではないか。</li> <li>・通院介助支給対象、非対象の決定における差が不明。</li> <li>・サービス利用の意思決定において、親の意向が先行することがある（特に重度の場合）</li> <li>・日中一時や児童デイ等の受入れ状況などの情報共有が必要。</li> <li>・行政と福祉が建設的協議ができるような関係構築が必要。</li> </ul>

今回は、R5.5.18(木)9:30～11:00 ZOOM によるオンライン開催。

# 香川県立高松支援学校 個別の教育支援計画



子どもたちの  
より豊かな生活の  
実現を目指して

## 個別の教育支援計画とは・・・

個別の教育支援計画とは、本人や保護者の希望を踏まえ、障害のある児童生徒一人一人に必要な教育的ニーズを関係機関(教育、医療、保健、福祉、労働等)と連携して正確に把握し、幼児期から学校卒業までを通じて一貫して適切な支援を行うことを目的として作成されます。

【香川県教育委員会「すべての教員のための特別支援教育ハンドブック」より】

子どもたちの将来に繋がる  
大切な計画書です

A より豊かな生活をイメージして、教育的ニーズを整理するためのツール

B 連携のためのツール

C 必要な支援を引き継ぐためのツール



# POINT①

## A「より豊かな生活をイメージして、 教育的ニーズを整理するためのツール」



個別の教育支援計画を作成する前に、まずは本人・保護者・担任で「より豊かな生活」をイメージします。

そして、そのために必要な支援について、本人・保護者・担任が話し合いながら、個別の教育支援計画を作成します。



**現在の願いや課題を知り、「より豊かな生活」の実現のために必要なこと（教育的ニーズ）を考えます**

### 本校様式：個別の教育支援計画 I

個別の教育支援計画 I	
〇〇部 〇年	香川県立高松支援学校 作成年度 令和 年 月 日
本人 (回っていることなど) 現在の課題	現在の生活の充実や将来のより豊かな生活の実現に向けての課題について記入します
本人 (つきたい力など) 現在の願い	より豊かな生活の実現に向けて取り組んでもらいたいことや、支援してほしいことを記入します
児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標	
教育的ニーズを踏まえた長期支援目標を記入します	
連携する関係機関等	連携の記録・履歴
この支援計画を了承します。 令和 年 月 日 氏名	

本人や保護者の  
現在の課題(困っていること)  
現在の願い(つきたい力)  
を明確にします

教育的ニーズを考え、本人・保護者・担任で「より豊かな生活」のイメージを話し合います

実現のために必要な  
教育的ニーズを踏まえた長期支援目標  
を立てます

必要な連携機関を書き出し、  
実際に行った連携の履歴を記入します

### 教育的ニーズって？

子どもの「より豊かな生活」の実現のために必要なことを教育的ニーズと言います。

つまり、自立と社会参加を見据え、その時点でその子どもに最も必要な教育のことです。そこで、整理するポイントを以下の3点を参考とし、教育的ニーズの整理を行っています。

#### <整理するポイント>

- ①障がいの状態等の把握
- ②その子どもにとって特別に必要な指導内容
- ③合理的配慮を含む支援内容

【文部科学省「障害のある子供の教育支援の手引」より】

より豊かな生活

教育的なニーズ

本人の今の生活





# POINT②

## B「連携のためのツール」



子どもの「より豊かな生活」を実現するためには、学校だけでなく、広い視野で子どもの生活を把握し、支援していく必要があります。

校内の関係者や校外の関係機関と情報交換するだけでなく、それぞれの立場でできることを話し合い、役割分担するためのツールとしても個別の教育支援計画を使っています。

高松支援学校では、個別の教育支援計画を校内・校外の会議に持ち込み、校内・校外関係機関との連携ツールとして活用をしています。

児童生徒を支援する関係者・機関が集まり、個別の教育支援計画をもとに、支援目標や支援内容について情報を共有します。そして、支援目標に対して、具体的に「誰が」「いつ」「何をするのか」といった支援の役割分担まで話し合います。

### <校内における活用例>

- ・前期・学年末懇談会
- ・自立活動室との打合せ
- ・医療的ケア児の連絡会
- ・寄宿舎生の連絡会

### <校外の関係機関を含む会議等での活用例>

- ・サービス担当者会議
- ・PT・OT・STなどのリハビリ見学
- ・現場実習や進路に関する会議
- ・ケース会議

**「より豊かな生活」の実現のために、  
学校・家庭・関係機関が連携した具体的な計画を立てます**  
本校様式：個別の教育支援計画Ⅱ

個別の教育支援計画Ⅱ				
〇〇部 〇年 高松 太郎	香川県立高松支援学校 作成者氏名 令和 年 月 日			
短期支援目標	支援の内容			
	学校・家庭	担当	福祉・医療・労働等	機関名担当者名(年月日)
<p style="text-align: center; color: red; font-weight: bold;">支援目標に対して、誰が、いつ、何をするのかを具体的に決めます</p> <p>個別の教育支援計画Ⅰの「児童生徒のニーズを踏まえた長期支援目標」に対応した短期支援目標を記入します</p>	<p>学級、家庭での支援内容を保護者と話し合い、それぞれが行う手立てや配慮を記入します</p> <p>連携して支援を行う教科担任、自立活動室、寄宿舎、学校看護師等校内関係者が行う手立てや配慮を記入します</p>		<p>短期支援目標に対応した校外の関係機関(放課後等デイサービス、ヘルパー、PT、OT等)の支援内容や支援を行う機関名、担当者名を記入します</p>	
支援の評価・今後の課題・引継ぎ事項				
<p>・年度末に、一年間取り組んだ支援内容や配慮事項が含まれた短期支援目標の評価を記入します</p> <p>・短期支援目標について、関係機関の取り組みの状況が分かる範囲で記入します</p>				
この支援計画を了承します。 令和 年 月 日 氏名				

### より豊かな生活を考えるヒント

「より豊かな生活」を考える際に大切なことは、将来を漠然とイメージするのではなく、〇年後の「より豊かな生活」について具体的に考えます。小学部に入學したばかりの児童であれば、2、3年後の生活のイメージになりますし、高等部の生徒は、間近に迫った卒業後の生活を見据えたイメージになります。

また、以下の2つの視点を加えることで、より具体的な生活をイメージすることができます。

- ①現在の生活における課題を解決することで、自分らしく輝ける生活ってどんな生活ですか？
- ②社会参加や自立に向けて、本人の得意なことを活かして、どんなことができるようになるかとよいですか？





令和5年4月18日

相談支援事業所各位

香川県立高松支援学校  
校長 北村 宏美

## 本校教員のサービス担当者会議への参加・情報提供について

春暖の候、皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお喜び申し上げます。平素は本校の教育につきましてご理解をいただきありがとうございます。

さて、本校では現在在籍する児童生徒の約8割が障害福祉サービスを利用しています。

本校に在籍する児童生徒の障害福祉サービスの利用にあたり、担任等がサービス担当者会議に参加させていただくことで、障害福祉サービス利用の状況や過ごし方などの情報を得たり、学校での支援の情報をお伝えしたりすることができます。家庭・福祉サービス・学校が、お互いの情報を共有し支援を行うことで、一貫した支援、さらに支援の充実につながることが期待できると考えております。

つきましては、下記の「サービス担当者会議への参加・情報提供についての流れ」をご理解の上、ご協力いただきますようお願いいたします。

### 記

#### 《サービス担当者会議への参加・情報提供についての流れ》

学校から

更新日である誕生日の1か月前ごろ、保護者と担任がサービス担当者会議について確認します。

参加や情報提供をさせていただく場合は、保護者を通してご連絡します。



相談支援

事業所より

・日時や場所について、保護者を通してご連絡ください。  
(日程の調整につきましては、担任や特別支援教育コーディネーターが直接ご連絡させていただく場合もあります)



担任より

会議へ参加し、個別の教育支援計画などの資料を用いて、学校での取り組みを説明したり事業所での様子をお伺いしたりします。

#### ご確認いただきたい点

- ・本事業は高松支援学校独自のものです。他の特別支援学校の対応とは異なりますのでご注意ください。
- ・相談支援員への連絡は、原則保護者が行います。(日程の調整については、担任や特別支援教育コーディネーターが直接連絡をとることもあります。)
- ・本校を会場にお使いいただけますと、複数の教員が参加し、話し合いを行うことができます。是非ご検討をお願いします。
- ・不明な場合は担任、又は特別支援教育コーディネーター(小:塩路、中:秋山、高:桑島)までお尋ねください。

1	たかまつ	サンサン
2		コンパスサポート
3		自立ケア
4		キラキラ
5		きゃら
6		あいリンク
7	こだま・あい・ほっと	夢
8		ウェルネスサポート
9		医療センター
10		れいんぼー
11		シシイ
12		みき相談支援センター
13		ナビット
14		kusu の木
15	りゅううん ・ライブ	こがも
16		ミルキーウェイ
17		つなぐ
18		We
19		フリーダム
20		ぱぷりか
21		garyu
22	基幹中核・クリマ	ハミング
23		おりがみ
24		しののめ
25		社協
26		AERU
27		昭和町
28		あじの里
29		ウルカ
30		ENEN

基幹中核→ライブ

こだま→基幹中核